

アーティスト・イン・レジデンス完了届

2026 年 8 月 28 日

社会連携センター長 殿

所属学部・専攻 美術学部・陶磁専攻

申請者 職名・氏名 准教授 小枝真人

社会連携センター主催事業 前田直紀氏アーティスト・イン・レジデンスを次の通り開催しましたので報告します。

実 施 期 間	滞在期間：2026 年 5 月 7 日～7 月 10 日 成果発表展期間：2026 年 7 月 25 日～8 月 9 日				
事業の実施概要	プログラム	アーティスト トーク 海外の制作について	アーティスト トーク	楽焼ワーク ショップ	トークイベ ント
	日時／会場	5 月 1 2 日 1 3 時～ 陶磁棟	6 月 1 2 日 1 2 時～ デザイン棟	7 月 5 日 陶磁棟 陶磁棟	7 月 2 5 日 1 5 時～
	集客数	2 0 人	約 1 5 人	1 0 人	4 5 人
事業成果 について	前田氏は本レジデンスを通じて、大学に対して単に技法を伝えるのではなく、思考プロセスそのものを提供した。実験的な制作姿勢、大型作品制作のプロセス、失敗や試行錯誤を含めた作家としての姿勢が、学生との継続的な交流や公開見学会、楽焼ワークショップ、講演などを通じて参加者に共有された。 一方、前田氏にとっても、本学の教員や学生との交流、充実した制作設備や大型窯を活用することで、これまでにない規模の作品制作や新たな表現に挑戦する機会となった。 このように、作家から大学への一方向的な知識や技術の提供ではなく、作家と学生・教員が制作の現場を共有し、双方が刺激を受けながら新たな可能性を探る機会となったことが、本事業の大きな成果である。 今回のアーティスト・イン・レジデンスでは、外部作家が大学の制作環境を活用して作品を制作するだけでなく、その思考や試行錯誤の過程を学生と共有することで、通常の授業とは異なる実践的な学びの機会をつくることができた。 今後は、今回の成果を一過性のものとせず、招聘する作家や制作テーマを変えながら継続的に実施することで、本学陶磁専攻の教育・研究活動の一つとして発展させていきたい。特に、本学が有する大型窯や充実した制作設備を生かし、作家にとっても通常の制作環境では困難な実験や大型作品に挑戦できる場とすることで、大学と作家の双方にメリットのあるレジデンスを目指す。				

	また、学生が制作現場を見学するだけでなく、制作補助、ワークショップ、展示設営、トークイベントなどに主体的に関わる機会を設けることで、作品制作から発表までの一連の活動を実践的に学ぶ場としていきたい。 さらに、制作過程や作家・学生との交流を写真や映像、文章によって記録し、大学内外へ継続的に発信することで、本学陶磁専攻の教育・研究・制作環境の特色を広く伝えることも重要である。将来的には、国内外の作家や教育機関との交流、地域や社会に開かれたワークショップや成果発表などへ展開し、本事業を本学の教育・研究・国際交流・社会連携をつなぐ取り組みへと発展させていきたい。			
新聞・雑誌などメディアへの掲載	日付	新聞／雑誌名	ページ	表題
外部資金の取得状況	無			
当学内での主な担当教員	小枝真人			携帯： メール：

- 1 枠内に記入できないときは、別紙を用いること。
- 2 事業の資料（チラシ、リーフレットなど）を添付すること。